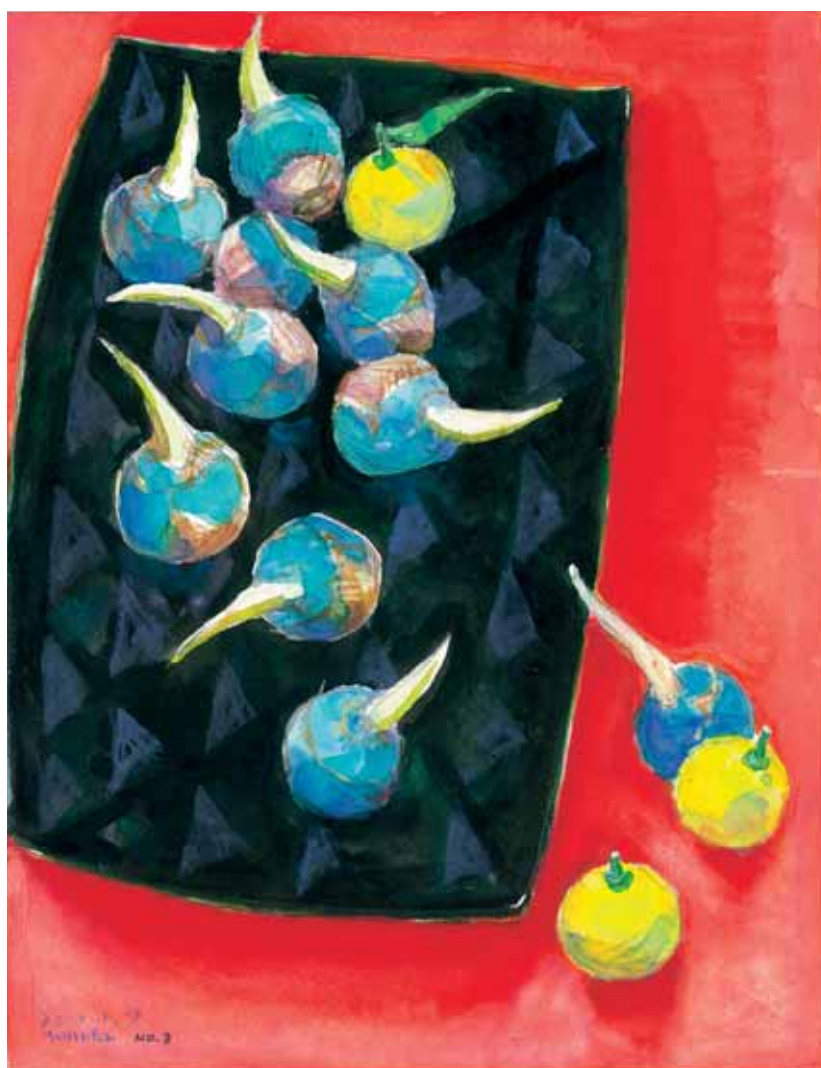


福祉にいがた

Fukushi Niigata

1月号

2016
第761号



村山 陽「祝いごと おとずれ(くわいと柚子)」
(一水会委員・上越市在住)

巻頭特集

CONTENTS

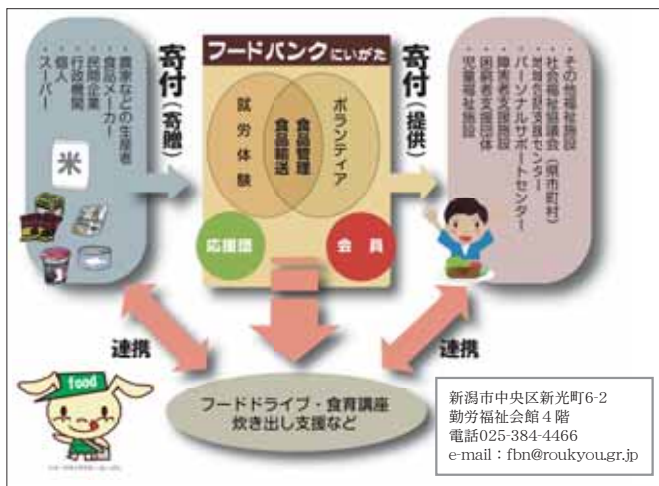
フードバンクにいがた

無駄に捨てられる食品活かし困窮者支援

(2・3頁)

- 年頭所感 竹内希六・県社協会長 小田敏三・県共募会長
 - 28年度に向け福祉団体が泉田知事に共同要望書提出
 - ずくむ2015 vol.9 温もりの時間
 - 「Dr. ヤマゴンの健やか通信」——その十三
- これからの障害者福祉を考える

「もったいない」から「ありがとう」へ 無駄に捨てられる食品活かし困窮者支援



「飽食の時代」と言われる。家庭で、事業所で品質に何ら問題のない食品が次々に捨てられている。国の推計(22年度)によると食品ロスの量は、年間500万から800万トンのうち、その米の年間収穫量が800万トンのうち、そのすさまじさが分かる。何とも「もったいない」話。一方で、毎日の食事に困っている人たちがいる。無駄に捨てられている食品を困っている人

たちに提供できれば、さまざまな問題解決の一歩が踏み出せる。「もったいない」という気持ちを一歩進め「ありがとう」の心で両者を結び「フードバンクにいがた」(新潟市中央区新光町6の2 勤労福祉会館4階。11月、全国フードバンク推進協議会が結成されたのを機に、その活動を事務局の真木英明さんにつか

米1合キャンペーンが新潟の始まり

「フードバンク」活動は、1960年代のアメリカで

始まった。日本に伝わったのは、2002年のこと。

アメリカ人留学生が持ち込んだもので、東京・山谷での炊きだしに使う食材集めがスタートだった。

運動は徐々に広がり、新潟にも届く。2012年「米1合」キャンペーンをスタートした。2013年7月6日に「フードバンクにいがた」を設立した。「みんなで一緒に活動するスタイルを大事にしたい」から任意団体に活動している。

活動の柱は、まず食品ロスを減らし生活困窮者を支援すること。事業所から、品質に問題がないもの、包装などの問題で商品から外れた食品を提供してもらい、個人からは食べきれない食品を「支え合いの心」で寄贈してもらっている。

「フードドライブ(家庭や職場から食品を持ち寄る運動)」を開き、広く寄贈を呼び掛けている。定期開催は新潟市では2014年までは万代シネ・ウインド前1か所だけだったが、現在は10カ所に増えた。月1回が多いが、新潟市中心部の西堀ローサ「よろっころーサ」・中央区社会福祉協議会内(こしじ会館3階)のように、常設もある。また、長岡市2か所と小千谷市1か所では期間常設を行っている。不定期のフードドライブは、年間30カ所。大学祭などでは、学生ボランティアが大活躍する。

昨年12月から1月まで2カ月間、「フードドライブ」の特別キャンペーンを行っている。全国協議会の肝いりで、昨シーズンノーマット・ランを達成した米大リーグ・マリナーズの岩隈久志投手も熱いメッセージで支援している。

「米1合」キャンペーンは、さまざまな問題解決の一歩が踏み出せる。「もったいない」という気持ちを一歩進め「ありがとう」の心で両者を結び「フードバンクにいがた」(新潟市中央区新光町6の2 勤労福祉会館4階。11月、全国フードバンク推進協議会が結成されたのを機に、その活動を事務局の真木英明さんにつか

活動の柱は、まず食品ロスを減らし生活困窮者を支援すること。事業所から、品質に問題がないもの、包装などの問題で商品から外れた食品を提供してもらい、個人からは食べきれない食品を「支え合いの心」で寄贈してもらっている。「フードドライブ(家庭

や職場から食品を持ち寄る運動)」を開き、広く寄贈を呼び掛けている。定期開催は新潟市では2014年までは万代シネ・ウインド前1か所だけだったが、現在は10カ所に増えた。月1回が多いが、新潟市中心部の西堀ローサ「よろっころーサ」・中央区社会福祉協議会内(こしじ会館3階)のように、常設もある。また、長岡市2か所と小千谷市1か所では期間常設を行っている。不定期のフードドライブは、年間30カ所。大学祭などでは、学生ボランティアが大活躍する。昨年12月から1月まで2カ月間、「フードドライブ」の特別キャンペーンを行っている。全国協議会の肝いりで、昨シーズンノーマット・ランを達成した米大リーグ・マリナーズの岩隈久志投手も熱いメッセージで支援している。寄贈を受け付ける食品は、未開封で賞味期限が2か月程度あり、産地が特定

岩隈投手のメッセージ



「子どもを含む生活に困窮する方々の為に少しでも役に立てるよう、私、岩隈久志も野球での活躍を通じてフードドライブをサポートしてまいります！みんなで力を合わせましょう！」

できるもの。常温で日持ちするものに限っている。ジャガイモやニンジン、大根など根菜類も保存が利くのでOKだ。

2014年は約10ト集まった。昨年は15トに増えそう。最も多いのは、お米。農家や市民が積極的に協力してくれるからで、全体の半数を占めている。次いでしょうゆ・油など調味料、乾麺が多く、缶詰や菓子類が続いている。

これらの食品は「フード

バンク」の倉庫で保存・分類した後、生活困窮者支援施設・団体や福祉施設、パーソナルサポートセンター、行政、社協などの相談窓口を訪れた生活困窮者などに無償で贈られる。施設など

学生や引きこもりの就労体験にも力

食品ロスを減らすことは、環境への負荷を和らげることに役立つ。捨てられた食品は焼却処分される。無駄にせず消費すれば、二酸化炭素の排出量を幾ばくか減らすことにつながる。

就労体験も「フードバンクバンクにいがた」の大きな柱。一つは大学生を対象にしたもので、前年に続き昨年も4人の敬和学園大学生が2週間体験した。そして、引きこもりなどで社会になかなか入っていけない若者たちも受け入れている。仕事に就きたくても一気にはいかず、徐々に慣らしていこうというもの。年

は幅広い食材を必要とするが、困窮者は「ライフラインが止められた人もおり、缶詰、カップ麺・レトルト食品などすぐ食べられるものを求める」という。

4〜5人が参加、自立に向けて、主にパソコンでのデータ入力、商品管理に携わっている。仕事の雰囲気を知ること、主眼を置いており、朝夕のあいさつを徹底することから始めている。



新潟医療福祉大学でのフードドライブ（10月）

強めたい行政や地域との協力体制

寄贈品も寄贈先も増え、順調に進んではいるが、課題もないわけではない。

まず、人材。活動はボランティアが支えている。事業が拡大すれば、それだけ多く必要になる。また活動には、理解は示すものの寄贈にまでつながらない企業も多い。そんな企業にアプローチできる人材が欲しい。

現在、新潟市と長岡市に拠点とセンターがあるが、今後、下越や上越にも設置

したいと考えている。それには、場所も必要だが支援者、何よりもリーダーが欲しい。

運営資金は、会員の年会費でまかなう。個人会員（一口2千円）は現在100人、団体会員（一口1万円）は25。これに議決権のない団体賛助会員（一口5千円）がいるが、まだまだ少ない。たくさんの支援者がほしい。

そして、何よりの悩みは、「本当に困っている人が見えてこない」ところだという。プライバシー保護の問題もあるし、活動がまだ知られていない現状もある。

そのため「フードバンク」としては、「行政も含め連携して支援できる仕組みを作りたい」と考えている。コミ協、民生委員や自治会長、地域包括支援センター、PTAなど地域で活動している人との関係強化を望んでいる。



阿賀野市社協で実施したフードドライブ（6・10月）

年頭挨拶



社会福祉法人
新潟県社会福祉協議会
会長
竹内 希 六

新年明けましておめでとうございませう。

県民の皆様には、日頃から社会福祉の推進に一方ならぬご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年、政府は一億総活躍社会のスローガンのもと、出生率の向上とともに介護離職ゼロを目指して施設整備を加速する方針を打ち出しました。施設入所待機者や介護離職者が多い現状を見れば、直ちに取り組みべき施策と思います。ただ、介護の現場で働く人材の確保が伴わなければ絵に描いた餅となりかねません。待遇面の改善などいろいろな課題もありますが、福祉に従事する方々が誇りを持って働ける環境作りに努めるとともに、

福祉職を目指す人の増加にもこれまで以上に力を入れていきたいと考えています。

新潟県社会福祉協議会といましては、今、社会福祉法人に問われている財務規律やガバナンスの強化など、公益的な団体としての責任を更に自覚し、幅広く関係団体と協働しながら、地域包括ケアシステムの推進や障害者差別解消法の施行などを念頭に「共に生き共につくる福祉社会」の構築に邁進してまいります。

本年も一層のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご多幸をお祈りし、新年のご挨拶といたします。



社会福祉法人
新潟県共同募金会
会長
小田 敏 三

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

県民の皆様には、日頃から赤い羽根共同募金運動にご理解と多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

69回目となりました平成27年度の共同募金運動は、目標額を4億8,400万円と定め、その達成に向けて懸命に取り組んでまいりました。

これまでにお寄せいただいた皆様からの温かいご支援と募金関係者のご努力に対し、心より感謝申し上げます。

お寄せいただいた浄財は、県内の民間福祉活動

や社会福祉施設の整備、NPOやボランティア活動、社会福祉協議会の地域福祉活動や多様化している様々な地域課題を解決するための活動を支える貴重な財源として役立

たせていただきます。新潟県共同募金会は、これからも県内の地域福祉活動を推進するため、更なる努力を続けてまいります。

一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りしまして、ご挨拶といたします。

お寄せいただいた浄財は、県内の民間福祉活動

謹賀新年

- (一財)新潟県民生委員児童委員協議会
会長 長谷川 剛
- (二財)新潟県老人クラブ連合会
会長 川崎 悌吉
- (社)新潟県母子寡婦福祉連合会
会長 中野 キン子
- (社)新潟県手をつなぐ育成会
理事長 片桐 宣嗣
- (社)新潟県老人福祉施設協議会
会長 市井 栄吉
- 新潟県ホームヘルパー協議会
会長 石黒 裕里子
- 新潟県保育連盟
理事長 平澤 正人
- 新潟県私立保育園連盟
会長 伊東 一男
- 新潟県保育士会
会長 猪俣 清子
- 新潟県社会福祉法人経営者協議会
会長 田宮 崇
- (公社)新潟県社会福祉士会
会長 星井 勝博
- (公社)新潟県介護福祉士会
会長 宮崎 則男
- 新潟県内社協職員連絡会
会長 大竹 敏一
- 新潟県社会就労センター連絡協議会
会長 寺口 能弘
- (社)新潟県介護支援専門員協会
会長 高橋 是司
- 新潟県災害福祉広域ネットワーク協議会
会長 竹内 希六
- (新潟ユニゾンプラザ入居福祉団体)

施策への反映求め泉田知事に共同要望書

12福祉団体 岡福祉保健部長には13団体が提出



新潟県社会福祉協議会など13の福祉団体は12月15日、県庁に泉田裕彦知事を訪問、県の社会福祉政策や編成作業が進む28年度予算に対する12団体の共同要望書を提出しました。

竹内希六・県社協会長が「平成28年度新潟県福祉団

体共同要望書」を泉田知事に手渡した後、各団体の会長・理事長が手短に内容を説明しました。これに対し知事は、詳しい内容を質す中で前向きに対応する姿勢を示していました。

この後別室に移り、岡俊幸・福祉保健部長あての要望書（13団体）を提出、各団体個別の要望の実現に向けた協力を重ねて依頼しました。

泉田知事に対する重点要望

◆人材の確保と雇用

- ◆新潟県福祉人材センターの体制強化について
(新潟県社会福祉協議会)
- ◆介護人材確保、育成について
(新潟県老人福祉施設協議会)
- ◆介護人材の確保、育成、定着について
(新潟県介護支援専門員協会、新潟県介護福祉士会)
- ◆介護職員等の就労支援及びキャリアアップの充実
(新潟県介護福祉士会)
- ◆サービス提供者就任前研修の実施について
(新潟県ホームヘルパー協議会)

◆安心して生活できるサービスの確保

- ◆知的障がい者の生涯にわたる相談・助言体制の強化
(新潟県手をつなぐ育成会)

◆地域に根差した活動の支援

- ◆精神障害者差別解消法が有名無実にならないよう実質的に機能する施策を講じてください
(新潟県精神障害者家族会連合会)
- ◆ひとり親家庭の子どもの貧困対策
(新潟県母子寡婦福祉連合会)
- ◆災害時要配慮者に対する支援体制整備・促進
(新潟県災害福祉広域ネットワーク協議会)
- ◆民生委員・児童委員活動の理解促進を図るための県民への広報・啓発の取り組みについて
(新潟県民生委員児童委員協議会)
- ◆市町村と老人クラブ等関係団体との連携に向けた支援
(新潟県老人クラブ連合会)
- ◆「盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業」の全国的な周知を図ってください
(新潟県身体障害者団体連合会)

心豊かなシニアの生き方探る

2月15日にユニゾンプラザでフォーラム開催



山本・新潟医療福祉大学学長



石上・県高齢者大学学長

包括連携協定を結んでいる新潟県社会福祉協議会（竹内希六会長）と新潟医療福祉大学（山本正治学長）は、2月15日、新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2）2階多目的ホールで、フォーラム「自分らしく心豊かに生きるために―シニア世代のアクティビティに向けて―」を開催します。

協定は、福祉や健康・スポーツなどの各分野で協力し合うことで、福祉社会の発展や地域創生に寄与するとともに、地域社会に貢献出来る人材育成を図るため昨年3月締結しました。機関誌「福祉にいがた」に「これからの福祉を考える」連載を掲載するなど、協力活動を展開します。

現代は超高齢社会を迎えつつあります。高度成長を支えてきたシニア世代は、社会活動の一翼を担うことを期待されています。フォーラムでは、シニア世代が能力や意欲を發揮し、心豊かで活力ある長寿社会のあり方について若い世代と熱く語り合います。

午後1時半開会。昨年の全国大会で優秀賞を獲得した同大学ダンス部が華麗なパフォーマンスを披露した後、山本学長が基調講演します。その後約1時間、フリーアナウンサーの伊勢みずほさんをコーディネーターに同大学の教授でもある石上和男・新潟県高齢者大学学長のほか高齢者大学卒業生、医療福祉大学の学生も加わり公開対談形式のアクティビティ・トークを展開します。

対象は、高齢者大学生など県民400人。参加費は無料。希望者は、2月8日まで県社協地域福祉課までファクス025(285)0303または、メールoasis@fukushinigata.or.jpでお申し込みください。

Dr.ヤマゴンの
健やか
通信

その十三

あけましておめでとうございます。この冬は、全体には暖冬の予報です。穏やかな一年になることを祈ります。

ここ数年、新聞記事でも「減塩」という文字をよく見かけるようになりまし。昨年9月号で「減塩ルネサンス」について書いた

毎日糊のきいたワイシャツにスーツをキツチリと着て、ネクタイを締める。定年退職後も約10年に渡って働いていた祖父のユニフォームでした。まだ幼かった自分の目に映る祖父の背中、どこか大きく、仕事への情熱や誇りを感じさせるものでした。

時が経ち、そんな祖父が通所施設の利用を勧められていると聞きました。今まで自分の力で色々なことを

してきた祖父。「他者からの支援」というものを、そんなりと受け入れるのだからか：正直、そんな思いがよぎりました。

それからしばらくして、本人に話を聞いてみました。すると、「行くと、まづこれをして、それからあれをするんだ：ああ、でもこの前はこんなこともしたんだ」「職員は若いのにみんなしっかりしてて、気さくに声をかけてくれる。こ

の前は誕生日を祝ってもらって：」等々、まんざらでもない様子。意外でした。利用にあたり、きつと祖父なりに悩んだり考えたりしたと思います。しかし、患った病によって徐々に身体が思うように動かなくなり、家にこもりがちになっていった祖父にとって、そこは温かい「人との触れ合いの場」であったようです。

「ふくし」という言葉が、よく「ふだんのくらしのし

あわせ」の頭文字として表現されているのを目にします。駆け抜けてきた時間、築かれた価値観、全てが千差万別という中で、何がその人の「幸せ」なのかを理解し支援するということは答えのない永遠のテーマのように思います。施設に通過した時間が、祖父にとって暮らしの幸せや張り合いに少しも繋がっていないのなら嬉しいなあ：と思う今日この頃です。(実央)

ところですが、11月に、厚生労働省の「健康寿命をのばそう！アワード」の生活習慣病分野優良賞（健康局長表彰）を受賞しました。「小林太刀夫賞」に引き続いての受賞ということで、大変喜ばしいことです。

取組そのものはまだ終わっていないどころか、現在も進行中なのです。

その一つとして、現状のデータを細かく分析した結果、いろいろなことがわかり始めています。新潟県民の中で塩分摂取が多い人の「食べ方」を調べたとこ

続・「減塩」のちよつとした工夫

ろ、表に示すとおり、様々な特徴が見えてきました。「あれは食べちゃダメ」ということでなく、何でもほどこぼどに、ということが、この調査結果からもうかがえます。

このほか、表には示していませんが、「減塩を心がけている」人が必ずしも塩分摂取量が少ないわけではなく、一部紹介されました。え、なぜ？と疑問になりますよね。調査結果を詳しく分析したところ、薄味の煮物をたくさん食べてい

た、意識と実際の行動が一致しなかった、など、まだまだ調べる必要があることが残されています。

しかし、今では、汁まで飲み干しても食塩摂取量が4グラム以下の「減塩ラーメン」など様々な食品が開発されています。

れ、「健康ビジネスサミット」のおおめま会議2015でも一部紹介されました。こうした様々な分野の取組が、一つの大きな波になって、県民を挙げての運動につながっていくことを期待しているところです。

塩分摂取が多い人の食べ方の特徴

(栄養政策策定及び評価体制構築のためのデータ分析ワーキング；新潟県立大学調べ)

- 1 食事は満腹まで食べる。
- 2 主食同士を組み合わせる。例：おにぎり+カップめん等
- 3 丼もの、カレーライスやめん類を、週3回以上食べる。
- 4 煮物を1日に4品以上食べる。
- 5 漬物を1日に1種類以上食べる。
- 6 たらこや筋子などを1日に1回以上食べる。
- 7 めん類の汁を飲む。
- 8 濃い味付けを好んで食べる。
- 9 外食を週2回以上する。 10 毎日飲酒をする。

日常生活自立支援事業は

全市町村社協方式に移行を

県社協総合企画部会が会長に意見具申

11月30日、新潟県社会福祉協議会総合企画部会の江口孝雄部会長から竹内希六・県社協会長に「新潟県社協活動指針『地域における権利擁護事業の推進』について」意見が具申されま

した。基幹的社協方式で実施している「日常生活自立支援事業」について、今後は全市町村社協実施方式に移行する必要性を具申しており、竹内会長は「3月の理事会に諮った上で28年度以降の事業計画に反映したい」と応えました。

同事業の利用者は年々増加しているものの、潜在的需要の1割程度に留まっており、今後更なる増加が想定されます。また基幹的社協所在市とそれ以外の市町村との間で3倍余の利用格差が生じています。

国が進めている地域包括ケアシステムの構築においても、身近な地域における迅速かつ

継続した支援などの適切な対応が難しくなる恐れもありました。

本来業務を外れ、介護保険制度を肩代わりしたり、生活保護受給者などで本来担うべき主体の肩代わりになっている事例も多く見られます。

そこで総合企画部会の中の「地域における権利擁護事業の推進小委員会」（松山茂樹委員長）で議論を重ね、今後の方向性をまとめました。小委員会の報告を踏まえ企画部会が検討の上、意見を具申しました。移行に当たっては3年程度の準備・移行期間を設けること、他制度の役割をきちんと整理して進めることなども説いています。

生保協新潟県協会 ボランティア団体と 福祉施設助成

地域CR活動に取り組む生命保険協会新潟県協会（高森大造会長）は12月7日、県内17のボランティア団体に物品購入費（総額102万円）を、魚沼更生福祉会（角屋禮士理事長）に福祉巡回車を寄贈しました。

午前中に行われたボランティア団体への贈呈式には、高森会長、竹内希六・新潟県社会福祉協議会会長のほか、贈呈を受ける側から9団体が出席しました。目録を受け取った9団体代表は、活動内容を紹介しながら感謝の意を表しました。

午後には、高森会長から角屋理事長に「ゴールデンキー」が贈られました。



寄付 ありがとうございます 寄贈 (敬称略)

10月30日	新潟県すし商生活衛生同業組合	すし折り詰め	641個
11月 7日	自動車総連 スズキ関連労働組合連合会	軽乗用車	1台
12月	カナカン株式会社	カップ入り麺	768食
12月	新潟県麺類飲食業生活衛生同業組合	インクジェットカラープリンター	1台
		デジタルスチルカメラ	1台
		救急担架マット	2台
11月27日	一般社団法人生命保険協会新潟県協会		1,020,000円
12月 2日	(公)日本プロゴルフ協会上信越地区実行委員会		77,314円

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険



対象となるボランティア活動

- ◆グループの会則に則り企画、立案された活動であること
(グループが社会福祉協議会に登録されていることが必要です。)
 - ◆社会福祉協議会に届け出た活動であること
 - ◆社会福祉協議会に委嘱された活動であること
- ※活動のための学習会または会議などを含みます。
※自宅などとボランティア活動を行う場所との通常の経路による往復途上を含みます。(自宅以外から出発する場合は、その場所と活動場所への往復途上となります。)

保険金をお支払いする主な場合

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをして通院した。(ケガの補償)
- 活動に向かう途中、交通事故にあって亡くなられた。(ケガの補償)
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になって入院した。(ケガの補償)
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花瓶を落としてこわした。(賠償責任の補償)
- 自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

補償金額(保険金額)・保険料

		Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円	
	後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円 (限度額)		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)	
	年間保険料	基本タイプ	300円	450円
天災タイプ ^(※) <small>(基本タイプ+地震・噴火・津波)</small>		430円	650円	

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

ボランティア行事用保険 (普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

- 行事参加者(主催者(個人)を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。)
- 行事主催者の損害賠償責任も補償

送迎サービス補償 (普通傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

- 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
- 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

福祉サービス総合補償

(普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

- 在宅福祉サービス (公的介護保険対象外サービスを含みます。)
- 地域福祉サービス
- 障害福祉サービス
- 児童福祉サービス
- 障害者地域生活支援事業
- 介護保険サービス など

● お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
TEL:03(3593)6824

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

福祉の店 味わい散歩

製麺工房ドリーム本店

社会福祉法人愛宕福祉会

就労センタードリームネクスト

(新潟市北区木崎1-8-16番地5)

◇11時～15時

◇日曜定休

◇TEL 025 (384) 28000



こだわりのスープと麺が自慢のイケ麺

スープや麺に、徹底してこだわる。

一番人気はワンタン麺。干した魚と豚骨をミックスしたさっぱり系スープが、縮れ細麺にからむ。チャーシューは、国産(主に県内)もち豚。ツルツルとのどを通り過ぎるワンタンとともに

に、美味しさを引き出す。

濃厚な味噌ラーメンは、

当然ながら太麺。スープは野菜が主。施設の畑で栽培した新鮮トレットレのもの。

そして、新たに「曾我ト

マトとあぶりチャーシュー麺」がメニューに加わった。トマトと鶏ガラのスープに



極細麺。湯むきしたトマトとあぶったチャーシューをトッピングしてあるが、食べるときには何と粉チーズをお好みで掛け

る。スパゲティをイメージして開発したイッピン。

素材は、すべて隣室の製

麺工房(ガラス張りで見学

できる)の自家製。元々、生麺やワンタンなどを作る

工房として出発した。そして

25年10月、県道沿いに開店。カウンターとテーブル合わせ16席あるが、昼時は満席になるからお早めに。

30食以上揃えば「どこでも

ドリリーム号」が参上、移動販売(ラーメンのみ)してくれる。生麺もセット販売しており、同店と近くの

産直とよさかげんき村で手に入る。

4月には、上越市に姉妹店がオープンする。

福祉NEWS

2015年11月11日～12月10日

■フードバンク全国組織発足 困窮家庭に食料支援 本県組織も参加

経済的に困窮するひとり親家庭の子どもやホームレスらに、外装などの問題で販売できない食品や余った食料を届ける「フードバンク」活動を続けるNPO法人などが、情報交換や活動普及のため初の全国組織を発足させた。本県の「フードバンクにいがた」(新潟市中央区)＝2・3面参照＝など11県の団体が参加し、東京都中央区で11月13日に全国フードバンク推進協議会の設立シンポジウムを開いた。

内閣府も後押しし、全国での活動底上げとともに、団体のない地域での受け皿づくりも目指す。

■14年の高齢受刑者初めて1割超す 再犯率高く「福祉施設」化

2014年に刑務所に入った2万1,866人のうち65歳以上の高齢者は2,238人で、統計を取り始めた1991年以降初めて1割を超えたことが、11月13日に公表された15年版犯罪白書で分かった。高齢者は再犯率が高く、出所後に住居や仕事がないため犯罪を繰り返して服役期間が長期化するなど、刑務所が「福祉施設」化していることがあらためて裏付けられた形だ。

政府は刑務所を出てから2年以内に再入所する人の割合を21年までに16%以下にする数値目標を掲げている。近年は低下傾向にあり、13年は18.1%だったが、高齢者は24.9%で29歳以下の11.5%と大きな開きがあった。

■県内の働く障害者5,722人 過去最高を更新

新潟労働局は11月27日、県内の障害者雇用状況(6月1日現在)を発表した。障害者の雇用が義務付けられている従業員50人以上の県内民間企業で働く障害者は、前年比7.3ポイント増の5,722人で過去最高となった。働く人に占める障害者の割合を示す雇用率は0.1ポイント増の1.85%。全国平均の1.88%は下回ったが、こちらも過去最高となった。

内訳は、身体障害者が3,876人、知的障害者1,333人、精神障害者が531人だった。法定雇用率(2.0%)を達成した企業の割合は4.6ポイント増の54.4%。規模別では千人以上の企業が75%で最も高く、50～99人規模の割合が49.3%で最も低かった。



その人にとって意味のある生活行為

く対象にしたものになるはずで、特に障害者については、介護保険では賄いきれない若年層の対象者が含まれます。またこれから増え続ける認知症を伴った高齢者の方々に念頭に入れた

制度づくりが必要で、このような中、厚生労働省は先の介護報酬改定で利用者の活動と参加に焦点を当てたりハビリテーションを促進するために、通所リハビリテーションサービスにおいて生活行為向上リハビリテーション実施加算という項目を新設しました。ここでいう生活行為とは図に示すようなセルフケアをはじめ家事や仕事、余暇、地域活動など人々が地域で暮らすためのあらゆる行為を指します。当然ながら、これらの中身は対象者ごとに異なるわけですが、地域

包括ケアではまさに対象者ごとの異なるニーズを反映させることのできる環境づくりが大切であると考えています。日本作業療法士協会や新潟県作業療法士会では、この生活行為に焦点を当てたリハビリテーションの普及を目指した活動を行っています。単に運動機能や精神機能だけの回復を目指すのではなく、地域で暮らす一人ひとりがそれぞれ人間らしく、希望を叶えたり、役割を持てたりするように活動や参加にスポットを当てサポートしていくというリハビリテーションです。子どもには遊びを、調理が好きな人にはもう一度調理ができるように、認知症の

方々にとっては徘徊するところが重要な意味を持つ場合もあるでしょう。目指すのはこのようなオーダーメイドの、ささやかなことかもしれないませんが意味のある個々人の活動を対象者から聞き取り、その実現を叶えようとする関わりです。人は本来、目的のある活動、つまりその人にとって意味のある活動をすることで生きる価値や生きがいを見出す動物です。様々な障害がありながらも、病院や施設から生まれ育った家に戻って生活を再開することは、人間らしさを回復するための大きな一歩であり、そこからまた無限の可能性が広がります。にいがたの福祉が地域包括ケアシステムの中で、このような障害者や高齢者一人ひとりの声に耳を傾け皆が寄り添うような地域コミュニティを構築できるよう、大学としても専門職集団としても力を結集して協力していきたいと考えています。

少子・高齢化が進展する中、地域包括ケアシステムが構築されようとしていますが、これは高齢者だけを対

象としたものではなく、将来的には地域それぞれのコミュニティに暮らす子どもから様々な障害者までを広く対象にした

制度づくりが必要で、

このような中、厚生労働省は先の介護報酬改定で利用者の活動と参加に焦点を当てたりハビリテーションを促進するために、通所リハビリテーションサービスにおいて生活行為向上リハビリテーション実施加算という項目を新設しました。

日本作業療法士協会や新潟県作業療法士会では、この生活行為に焦点を当てたリハビリテーションの普及を目指した活動を行っています。単に運動機能や精神機能だけの回復を目指すのではなく、地域で暮らす一人ひとりがそれぞれ人間らしく、希望を叶えたり、役割を持てたりするように活動や参加にスポットを当てサポートしていくというリハビリテーションです。

その人にとって意味のある生活行為実現に向けて

これからの

障害者福祉を考える

医療技術学部作業療法学科教授

能登 真一

新潟医療福祉大学

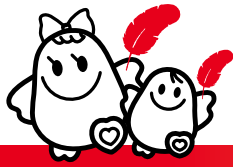


(のと・しんいち)

- 作業療法学科教授
- 医療経済・QOL研究センター長
- 日本作業療法士協会学術部委員長
- 国際医療経済・アウトカム研究会日本部会評議員

*研究分野

- 高次脳機能障害のリハビリテーション、QOL評価研究等



Information Red Feather 赤い羽根情報

- ◎**県知事賞**『ありがとう。がんばられ。』
上越市立国府小学校 1年 竹田 彩乃
- ◎**県教育委員会教育長賞**
『わたしにくれた、心のおくりもの』
長岡市立青葉台小学校 3年 宮下 月希
- ◎**新潟日報社長賞**『祖父母をみて感じたこと』
上越教育大学附属中学校 2年 浜 利奈子
- ◎**NHK新潟放送局長賞**
『ぼくの心を伝えるよ』
新潟大学教育学部附属新潟小学校 5年 古泉 修行
- ◎**県社会福祉協議会長賞**
『目には見えないつながり』
上越教育大学附属中学校2年 関野 愛珠
- ◎**県共同募金会長賞**『支えてくれる人がいる』
長岡市立東中学校 3年 佐藤 泰菜

「第63回たすけあい作文コンクール」の表彰式が、11月21日新潟



第63回たすけあい作文コンクール入賞作決定

ユニゾンプラザで行われました。今年39校から150編が寄せられ、入賞6編と佳作20編が選ばれました。施設に入っても家族を心配して声を掛けてくれた曾祖母の事を綴った作文で県知事賞を受賞した竹田彩乃さんが、「天国に旅立たひいばあちゃんも喜んでくれている」と思い

ます」と、受賞者を代表して挨拶しました。なお、入選作文集を希望される方は県共同募金会(025・281・5532)までご連絡ください。

「募金百貨店」第三弾贈呈式

募金百貨店「ハッピーハートにいがたプロジェクト」第三弾の募金贈呈式が12月1日、(株)ウオロク本社で行われました。ウオロクの葛見社長は、寄付金108万42円を目録を当会小田会長に手渡した後、「多くのお客様に賛同してもらえ、うれしく思います。今後も継続したい」と

話されました。このプロジェクトは、ウオロク全店で販売されたサントリー対象商品(飲料や酒類)の売り上げから、1本につき1円寄付を頂くものです。ご協力頂いた皆様ありがとうございます。



「あったか雪募金」始まる

3月末まで実施する雪国応援「あったか雪募金」が1月1日始まりました。除雪ボラン

ティア等の活動支援を目的に実施します。今年もご協力お願いします。



改造もします。

人にやさしい車

福祉車両のこまつが新潟より全国へお届けします。

福祉車両専門店

買いたい!

福祉車両の
新車・中古車販売!
常時展示中!

売りたい!

福祉車両の買取
ご相談ください。

直したい!

自社整備工場完備!
福祉車両の代車無料。



福祉車両のこまつ
株式会社 オートモティブコマツ
新潟県三条市小古瀬31
http://294komatsu.com
TEL 0256(45)3000

福祉の現場

高澤 裕さん

(特定非営利活動法人中途障害者つくしの会 つくし工房・指導員)

No.8

10月末、新潟市で開かれた第65回県民福祉大会。その時新潟県社会福祉協議会から贈られた表彰状は、紙パックを再利用して作られた「つくし工房」の手漉き紙。丁寧に、丁寧に漉き上げる利用者を指導するのが高澤さんの仕事。

高校卒業と同時に、つくし工房で働いている。「元々高齢者と話すことが好き」だった高澤さん、「おばあちゃんのところに来ていたヘルパーさんの紹介」がきっかけだった。

時にはおしゃべりしながら、時には根を詰めて、利用者さんと紙を作る。その時間がたまるなく「楽しい」という。

紙の素材は、牛乳や酒のパック。切り開いたパックを煮て柔らかくし、ビニールをはがし大きなミキサーでドロドロに溶かす。以前は「白い紙だけだった



笑顔が一転、プロの目が変わる。手漉きの紙にかけた思いは熱い。

が、最近ではタマネギの皮の煮汁を加えて色を付けた紙も作っている。きれいな薄茶色に仕上がっている。

これを漉き槽に入れ、網を張った木枠で漉くが「意外に重い」と、担当の諏佐文雄さんは言う。傾かぬよう持ち上げるのは「大変な作業」。偏って厚さにムラがあればやり直し。

漉いた紙が乾けば一応出来上がりだが、実は高澤さんが最も緊張するのはここから。「ホコリはないか、異物はないか」一枚ずつ点検する。取り除けなければ、溶かすところからやり直し。ちよつと見には分からないゴミも見逃さない。プロのプライドが、そうさせる。

100枚も200枚も点検した後は、目の疲れも並大抵ではない。仕事が、利用者が好きだからこそ「楽しい」と言えるのだろう。

製品は祝儀袋や一筆箋、レターセット、名刺、はがき、A4、A3（賞状）等の紙。ユニゾンプラザ内のパレットでも販売しているが、製品の質には定評があるだけに、販売量をどう拡大するかが「今後の課題」。

福祉の店パレット

社会福祉法人新潟市中央福祉会
ワークセンター大山台
(新潟市東区)

【施設紹介】

就労支援B型と生活介護事業に携わる多機能型事業所です。キャンドル、キャラメル製造のほか、委託作業として封入や公園清掃、分解作業を行っています。



【商品説明】

人気商品塩キャラメル！ 日本海の天然塩を使い、さわやかな甘さが身上です。冬季はココア味も登場しますよ！

干支のサルなど季節に応じたかわいらしいキャンドル！

ぜひ飾ってみてください。

☆塩キャラメル

＝写真手前左
200円（税別）

☆ツリーキャンドル

＝写真奥
278円（税別）

☆干支のサルキャンドル

＝写真手前右
200円（税別）



問い合わせ

福祉の店パレット新潟店
県社協 地域福祉課

☎025-281-5513

☎025-281-5521

「ご意見や感想お寄せください」

「福祉にいがた」について、ご意見、ご感想、知りたいテーマなどございましたら下記までお寄せください。
〒950-8575 新潟市中央区上所2-1-2
新潟ユニゾンプラザ3階 新潟県社会福祉協議会企画広報課
ファクス 025-281-5528

EMAIL oasis@fukushininigata.or.jp

この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5520
発行人／土屋 良治
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
平成28年1月1日発行（毎月1日発行）
昭和27年9月16日 第三種郵便物認可
印刷／島津印刷㈱